

大阪樟蔭女子大学 シラバス作成ガイドライン

平成 31 年 1 月 17 日 教務委員会制定

1. シラバス作成の基本方針

(1) 以下の目的のためにシラバスを作成する。

- 授業選択ガイドとして、学生が自分の興味、関心、学修計画に沿った科目を選択できる
- あらかじめ、授業内容、方法、評価について教員、学生が相互に確認できる
- 教員、学生が学修効果を高める資料として活用する
- 教員が授業設計の資料として活用する
- 教員間での情報共有を可能とし、授業改善・カリキュラム改善のサイクルに活用する
- 認証評価を始め、対外的に教育の質保証を証明する際の資料とする

(2) 上記の目的を達成するため、シラバス作成にあたっては以下の点を重視する。

- 学生の視点に立ち、分かりやすい記述をする
- 学生が学修計画を立てやすいよう具体的な記述をする
- カリキュラム全体の中での位置づけ、到達目標の実現を意識する
- 学修成果の評価に関する基準・方法を明確に示す

2. シラバスの記載項目

- ①授業科目の基本情報（科目名、単位数、科目番号、開期、講時、配当、担当教員名）
- ②授業の到達目標
- ③授業の概要
- ④準備学習
- ⑤テキスト
- ⑥参考書
- ⑦学生に対する評価
- ⑧課題に対するフィードバックの方法
- ⑨講義計画（回数、授業計画、予習、復習）
- ⑩アクティブ・ラーニングの授業方法
- ⑪ディプロマポリシーとの関係
- ⑫授業科目の位置づけ・レベルを表す記号
- ⑬授業方法について
- ⑭学生への要望
- ⑮担当者への連絡方法
- ⑯教員の実務経験と授業への活用 ※該当科目のみ

3. 各項目の記載について

②授業の到達目標

- ・本学では、カリキュラムマップを通じて、学生に身につけさせる資質・能力を明らかにし、学生が段階的な履修の方法や各科目の到達目標を明確に理解できるようにしている。そのため、各授業科目がカリキュラムの体系に明確に位置づけられており、各授業科目の「到達目標」が、大目標・中目標に沿ったものであること、到達点が明確であり評価可能であることが重要である。

そこで、以下の点に注意して記述する。

- 各授業科目の上位の「到達目標 1」「到達目標 2」を踏まえ、これらの目標が各授業科目で展開するよう目標を設定する
- 到達点を箇条書きにする
- 「～ができる。」「～が使える。」「～を表現できる。」など、学生の視点に立った表現にする
- 学生が自己評価できるような具体的で明確な表現にする
- 達成すべき到達目標の水準については「成績評価基準」に合わせて設定する

③授業の概要

- ・授業の全体が把握できるよう、具体的に記述する

④準備学習

- ・各授業の時間外に取り組むべき内容（予習や復習など）について、できる限り具体的に記述する

⑤テキスト

- ・使用する場合は記載する

⑥参考書

- ・使用する場合は記載する

⑦学生に対する評価

- ・学生に対して単位を付与する際に、どのような観点によって成績をつけ、単位を付与するのかを具体的な評価の割合とともに示す

⑧課題に対するフィードバックの方法

- ・学生に課す課題（試験、レポート、その他提出物等）に対するフィードバックの方法を示す

⑨講義計画（回数、授業計画、予習、復習）

- ・各授業の時間外に取り組むべき内容について、授業回ごとに「授業前（予習）」「授業後（復習）」のそれぞれを、要する標準的な時間も含めて、科目の特性に応じて記述する

⑩アクティブ・ラーニングの授業方法

- ・アクティブ・ラーニングの手法（以下に示すア～オ）の要素を含む授業を実施する場合は該当の欄に「○」を付す
 - ア 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習
 - イ ディスカッション、ディベート
 - ウ グループワーク
 - エ プレゼンテーション
 - オ 実習、フィールドワーク

⑪ディプロマポリシーとの関係、⑫授業科目の位置づけ・レベルを表す記号

- ・当該科目がディプロマポリシーのどれと結びついているのか、カリキュラムの中の位置付けやレベルを記号で示す

⑬授業方法について

- ・授業方法で特に事前に示しておく方が良いと思われるものがあれば記載（ICTの活用、特定の教材・システムの利用、学生同士のディスカッションを適宜取り入れる、等）

⑭学生への要望

- ・受講に際して学生に希望することや、あらかじめ有していることが望ましい知識、学修等があれば示す
- ・人数制限を実施する場合はここで示す

⑮担当者への連絡方法

- ・質問等の受け付け方法、オフィスアワーの曜時等を示す

⑯教員の実務経験と授業への活用

- ・当該授業科目に関連した実務経験を有する教員が、その実務経験を授業に活かしつつ実践的教育を行なっている場合、その実務経験と授業への活用について記載する